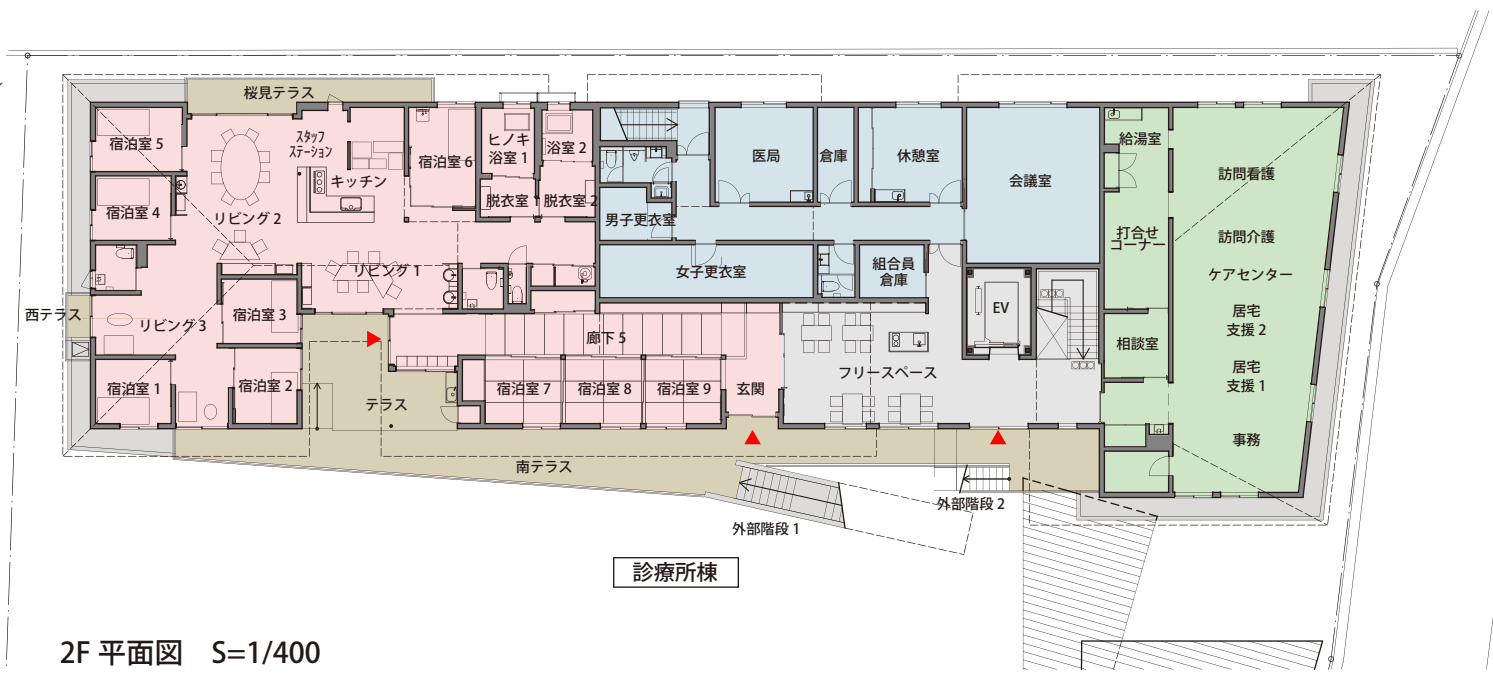
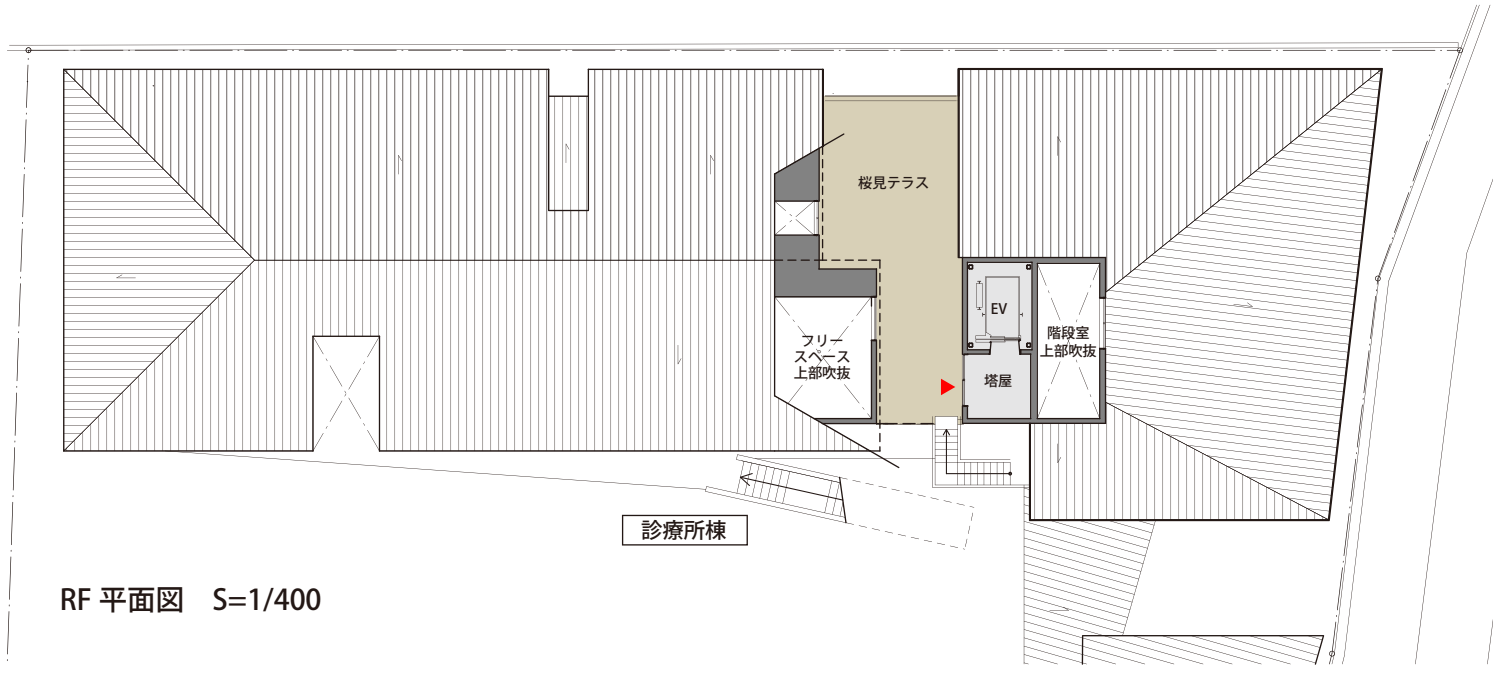




1F 平面図 S=1/400



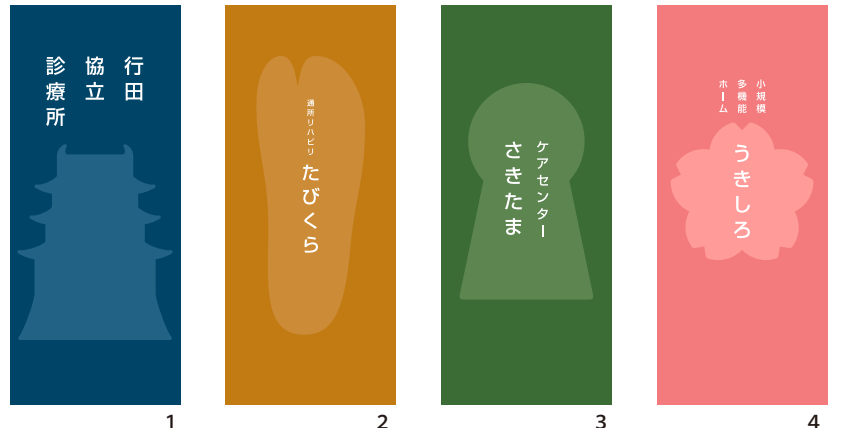
2F 平面図 S=1/400



RF 平面図 S=1/400

【図面凡例】

- 1 行田協立診療所
- 2 通所リハビリたびくら
- 3 ケアセンター さきたま
- 4 小規模多機能ホーム うきしろ
- 5 地域包括支援センター ほんまる
- 6 地域交流棟 オシノテラス



医療生協さいたま生活協同組合
行田協立診療所・ケアセンターさきたま

埼玉県行田市の中心部に位置する史跡忍城に隣接する本敷地は、周囲を郷土博物館、忍中学校、中央小学校に囲まれた文教地区にあります。老朽化した診療所・ケアセンターの建替えに合わせて、新たに通所リハビリテーション、小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センターを併設し、在宅診療、在宅看護、在宅介護を軸とした地域に根ざした医療・福祉の拠点となる複合施設を計画しました。

1階はRC造の壁式ラーメン構造の上にフラットスラブの床を配することで、2階の木造の間取りの自由度を向上させ、異なる機能に対応できる構造計画としています。1階RC造の壁の出隅部分を三角形に切り取ることで、視線の廻り込みから空間の拡がりをつながりを生み出しています。木造の屋根は、建物の平面形状をトレースした寄棟屋根とし、一部を切り欠きテラスとすることで、光や風を取り込んでいます。南側に張り出したテラスと、忍城の天守閣や桜を望むことができる屋上の桜見テラスは、機能訓練をしながら回遊できる動線としています。

前面道路側には、既存建物解体後に地域包括支援センターを含む地域交流棟をハナレとして、地域住民や小中学生が自由に立ち寄れる、地域の居場所となる計画としました。誰でも自由に利用できる場として開放し、健康講座や体操、子ども食堂などのイベントも行われます。2階の小規模多機能型居宅介護施設では、「生協 10 の基本ケア」を実践する場として、利用者それぞれが居心地の良い場所を見つけれられる住まいのような空間としました。

医療と福祉の横断的な取り組みを実現するために、複合した機能が相互に連携しやすいゾーニングとしています。忍城公園の景観特性を活かした佇まいとして、周辺文教地区のつながりをより深め、行田地域の暮らしを医療・福祉の視点からより良くする場所を目指しています。

【建築概要】

- 主要用途：診療所（内科、歯科、健康診断、訪問診療）
通所リハビリテーション
ケアセンター
（訪問介護、訪問看護、居宅介護、定期巡回）
小規模多機能型居宅介護
地域包括支援センター
- 主要構造：RC造一部S造（1F）
木造一部S造（2F）在来軸組工法
- 規模：地上2階
- 敷地面積：2434.33㎡
- 建築面積：827.53㎡
- 延床面積：1402.01㎡

【主要仕上げ材料】

- 外部
 - 屋根：ガルバリウム鋼板立てハゼ葺き、折板屋根
 - 外壁：杉板、窯業系サイディング、SOLID
 - 開口部：アルミサッシ、スチールサッシ
- 内部
 - 床：長尺シート、杉フローリング、タイルカーペット
 - 壁：石膏ボード+クロス貼り（一部エコフリース）
 - 天井：岩綿吸音板、クロス

【クライアント】

医療生協さいたま生活協同組合

【協働設計】

ハラヒロト建築設計事務所 原 浩人
神奈川大学工学部建築学科 吉岡寛之

【建築計画 介護福祉関連】

東京電機大学未来科学部建築学科 山田あすか

【構造設計】

yAt 構造事務所 森部康司・須藤崇

【設備設計】

ZO 設計室 伊藤教子・根本晋吾

【ランドスケープデザイン】

GA ヤマザキ 山崎誠子・針谷未花

【家具デザイン】

藤森泰司アトリエ 藤森泰司・石橋亜紀

【サインデザイン】

マルヤマデザイン 丸山智也

【照明デザイン】

萩原克奈恵

【施工】

大野建設